



戦略的イノベーション創造プログラム

自動運転に関する国際動向

平成27年9月17日

国際連携WG

主査 天野 肇

概観

米国政府

- 車車間通信装置の装着義務化に向けた動きを加速
- 義務化後の路車間サービスへの活用に向けた実証実験を推進
- 課題は、法制化、セキュリティ確保、周波数帯安定確保

欧州委員会

- FP7プロジェクトの推進 (Adaptive、CityMobil2)
- Horizon2020プロジェクトの始動 (2016-2017公募)
- グローバル連携の強化 (米国への共同プロジェクト働きかけ)

欧州各国独自プロジェクト

- 英国、スウェーデン、オランダなどで公道自動走行
- 国策として自国内企業や研究機関を中心に推進
- 制度・認証などの国際調和でのプレゼンス確保

関係者の関心事

- 基準作りと認証、社会需要性、実用化の課題、倫理問題

米国の道路交通の課題



Safety

交通事故死者数 33,561人(2012年)
交通事故件数 5.615百万件(2012年)
4歳、11-27歳の死因のトップ



Mobility

55億時間の遅れ
1,210億ドル(14兆円)の渋滞損失



Environment

29億ガロン(1,100万kl)の燃料の無駄
560億ポンド(2,540万t)のCO₂排出



ITS Strategic Plan 2015-2019 対象分野

協調型システム

(前戦略計画で開発・検証した技術の)
採用と実用化に重点化

自動運転

自動運転および関連技術による一定の
運転操作のドライバーから車両への移譲

将来技術

次世代交通システム

データ活用

固定センサ、移動端末、協調システム
からのデータの集約、共有、分析、そして
多様な交通手段の安全とモビリティ向上
への活用

相互接続性

機器間、システム間の相互接続性確保

実用化加速

USDOTの組織連携による実用化技術
の導入拡大



U. S. DOT NHTSA Rosekind局長 講演要旨

NHTSA: National Highway Traffic Safety Administration

最近の主な話題

- 財源確保難 (長期陸上交通予算の確保が課題)
- ビジョン 'Grow America'、国民的議論 'Beyond Traffic 2045'
- 車車間通信機器搭載義務化の加速
- 自動車におけるCyber securityの確保
(Auto-ISAC/Information Sharing and Analysis Centerの設立)

民間へのメッセージ(エアバッグ問題を例に)

- 業界横断の連携の必要性
- 人を救うための技術が人を逆に傷つけることの危険
エアバッグは、米国で毎年40,000人を救っているが傷つけてしまう事例が発生してしまった。技術者は、安全に対する責任を全うする努力を。